

# AI特許文書作成支援サービスの最新動向：TOKKYO. AI、AI Samurai、アツピアエンジン、ユアサポAIの比較分析

特許文書作成は知的財産管理において極めて重要なプロセスですが、従来は多大な時間と専門知識を必要としていました。近年、AIを活用した特許文書作成支援サービスが次々と登場し、この状況を大きく変えようとしています。本レポートでは、日本の主要AI特許文書作成支援サービスである「TOKKYO. AI」「AI Samurai」「アツピアエンジン」「ユアサポAI」の技術的特徴、導入事例、サービスの狙いと現状、評判、そして将来の発展可能性について詳細に分析します。

## TOKKYO. AI

### 技術的特徴

TOKKYO. AIは、高度なAI技術を活用した特許情報処理システムとして知られています。特に注目すべき技術的特徴として、ChatGPT-4oの実装による知的財産情報へのアクセス性向上が挙げられます<sup>[1]</sup>。

「ChatTokkyo」機能を通じて、ユーザーはAIとチャットしながら特許情報を簡単かつ迅速に調査することが可能です<sup>[1]</sup>。また、「生成AI」機能によって特許明細書を自動作成し、技術分野など各項目を網羅してスムーズな出願をサポートします<sup>[2][1]</sup>。

さらに、「AI検索」機能では文章の入力だけでAIが瞬時に関連文献から類似特許を検索・表示することができます<sup>[1]</sup>。「AIイメージ検索」機能では、画像をアップロードするだけでAIが類似商標を検索し、効率的な調査を支援します<sup>[2]</sup>。特筆すべきは独自のビッグデータ処理技術「Xシステム」を採用していることで、これによりデータ量の増加に伴っても処理速度が落ちない高いスケーラビリティと低コスト運用を実現しています<sup>[1]</sup>。

### 企業導入事例

代表的な導入事例として、昭和電工が日本IBMと共同で構築した「特許読解支援システム」があります。このシステムは特許情報のスクリーニングを支援し、効率的な特許情報管理を実現しています<sup>[2]</sup>。

2025年には、AIデータ株式会社が自動車メーカーの知財戦略を進化させるオールインワンプラットフォーム「IDX × AI孔明TM × Tokkyo.Ai」の提供を開始しました。このプラットフォームは、自動車メーカーが抱える情報管理と知財活用における課題解決を目指しています<sup>[3]</sup>。

## サービスの狙いと現状

TOKKYO. AIの主な狙いは、R&DチームとIPチームの連携をスムーズにするAIアシストの提供です<sup>[1]</sup>。DX時代の技術融合・複合のオープンイノベーション環境において、特許をはじめとする知的財産権が市場の主導権を握る重要な鍵となる中、知財部だけでなく経営陣、マーケティングや商品開発部などでも活用できるAIシステムを目指しています<sup>[1]</sup>。

現状では、リーガルテック株式会社の傘下にあるTokkyo. Ai株式会社が「プライベート特許検索」サービスを提供し、2024年8月には研究者向けAI特許検索機能をアップデートしました<sup>[4]</sup>。このアップデートにより、研究者は特許調査における作業時間を大幅に削減できるようになりました<sup>[4]</sup>。

## 評判

TOKKYO. AIは、日本語特許データの分析において高い精度を実現していると評価されています<sup>[5]</sup>。特に、高度な自然言語処理技術を活用している点が強みとして認識されており、様々な特許調査・分析サービスの比較において、日本語特許データに特化した分析ツールとして位置づけられています<sup>[5]</sup>。

## 将来予測

TOKKYO. AIは今後、日本語特許データの分析精度をさらに向上させるとともに、多言語対応を進めることでグローバル市場への展開を目指すと予測されます<sup>[6]</sup>。また、生成AIとの連携強化により、特許出願から権利化までのプロセス全体をカバーするサービスへと発展する可能性があります。特許検索クエリのプライバシー保護に注力している点も、企業の機密情報保護ニーズの高まりとともに、今後の競争力を高める要素となるでしょう<sup>[1][4]</sup>。

## AI Samurai

### 技術的特徴

AI Samuraiは、発明創出から特許申請支援までをワンストップで完結できるシステムです<sup>[6]</sup>。「AI Samurai ONE」は検索・評価・作成の全機能を網羅したAI搭載型の特許システムであり、特にユニーク

な技術的特徴として「審査シミュレーション」機能が挙げられます<sup>[7][6]</sup>。この機能では、AIが特許取得の可能性をA～Dの4段階で評価し、特許申請の成功確率を予測します<sup>[7]</sup>。

特許検索機能としては「かんたん検索」と「詳細検索」の2つの機能があり、IP Landscapeの実現を可能にしています<sup>[7]</sup>。「発明の内容」を入力するだけで、AIが検索式を自動的に生成する機能も備えています<sup>[6]</sup>。さらに「特許文書作成支援」機能では、従来のAI Samuraiの技術にChatGPTを搭載することで、より高品質な特許文書作成を実現しています<sup>[7]</sup>。

2023年10月にリリースされた「AI Samurai ONE」では、日本・米国・中国の3カ国の特許を同時に横断調査できる機能も追加されました<sup>[8][7]</sup>。

## 企業導入事例

AI Samuraiは多様な業界で導入されています。特筆すべき事例として、京都大学の子会社である株式会社TLO京都への導入があります<sup>[9]</sup>。TLO京都は、京都大学をはじめとする連携大学での研究成果を基にしたイノベーションの創出と知的財産の適切な権利化、技術移転を目的としており、AI Samuraiの導入によりアカデミアの知的財産の権利化および技術移転活動のより効率的な遂行が実現しています<sup>[9]</sup>。

また、2019年7月の発売以来、100社以上の顧客に導入されており<sup>[7]</sup>、輸送用機器、電気機器、情報・通信、化学、製薬、エネルギー業界の企業のほか、特許調査会社、研究機関、特許事務所、法律事務所など幅広い業種で活用されています<sup>[9]</sup>。

## サービスの狙いと現状

AI Samuraiの主な狙いは、AIの最新技術を駆使し、誰でも簡単に特許資料作成ができる社会の実現です<sup>[10]</sup>。特許申請支援システム「AI Samurai ONE」、対話型の特許文書作成システム「AI Samurai ZERO」、出願前の調査や書類の草案を最短3日で提案する「みんなの特許」などの開発を通じて、知財業務のDX化を推進しています<sup>[10]</sup>。

特筆すべきは、特許調査コストを最大40%削減できるという点です<sup>[8][10]</sup>。これは、AIによる自動検索と評価により、従来数週間を要していた先行技術調査が数分で可能になったことに起因します<sup>[9]</sup>。

## 評判

AI Samuraiは、その革新的な技術と使いやすさにより高い評価を得ています。2019年3月には第4回「JEITAベンチャー賞」（電子情報技術産業協会）を受賞し、2019年にはグッドデザイン賞（公益財団法人日本デザイン振興会）も受賞しています<sup>[9]</sup>。特に、初めて使用する方でもすぐに操作できる直感的なインターフェースが高く評価されています<sup>[9]</sup>。

## 将来予測

AI Samuraiの開発元である株式会社AI Samuraiは、日本の特許出願数増加に貢献したいという明確なビジョンを持っています<sup>[7]</sup>。2022年2月には経済産業省のグリーゾーン解消制度の照会において、AIの特許書類作成に関するサービスが弁理士の監督下であれば「適法」という判断を受け、より身近に戦略的な特許出願活動を提案できる体制が整いつつあります<sup>[7]</sup>。

ChatGPTの到来などでAI技術のシンギュラリティを予感し、AI Samuraiの強みを生成AIに組み込ませることにより、日本の未来の知財戦略に貢献するサービスへと進化を続けると予測されます<sup>[4]</sup>。今後は、さらに使いやすいインターフェースと高度なAI機能を組み合わせた包括的な知財管理システムへと発展する可能性があります。

## アップリアエンジン (appia-engine)

### 技術的特徴

Smart-IP株式会社が提供する特許明細書作成システム「appia-engine」は、2024年9月にChatGPT連携機能を追加したことで注目を集めています<sup>[11][12]</sup>。この新機能により、特許請求の範囲、発明の概要、発明の詳細な説明をChatGPTを利用して自動生成することが可能になりました<sup>[11]</sup>。

技術的に特筆すべきは、ユーザーが直接入力した情報、appia-engineに入力された発明の情報、および添付されたドキュメントファイルを基に、各項目に適したプロンプトでチューニングを行い文書生成する仕組みです<sup>[11]</sup>。さらに、Azure OpenAI Serviceを使用している点も重要で、これによりデータが再学習されるリスクを避け、高いセキュリティ環境下でChatGPTのAI機能を利用可能となっています<sup>[11]</sup>。

### 企業導入事例

具体的な企業名は明記されていませんが、2024年9月17日に開催されたユーザー会では、谷和紘弁理士と田中研二弁理士によるappia-engine活用事例の紹介があり、実際に特許実務で活用されていることが確認できます<sup>[12]</sup>。

## サービスの狙いと現状

appia-engineの主な狙いは、特許明細書の作成時間を大幅に削減し、特許実務の効率化を実現することです<sup>[11]</sup>。2024年9月3日にChatGPT連携機能の提供が開始されたばかりですが<sup>[12][13]</sup>、すでに多くの特許実務者の関心を集めています。

現状では、ChatGPT連携機能は有料のプロプランユーザーのみが利用可能となっており、既存のプロプラン契約者は即時利用が可能、製品トライアル中のユーザーも一定期間の利用が可能となっています<sup>[13]</sup>。

また、9月には「校正機能」と「中間対応機能」のリリースが予定されています<sup>[13]</sup>。校正機能では符号の重複、誤字脱字、表記ゆれ、先行詞のチェックが可能となり、中間対応機能では中間書類のデータをappia-engine上で管理でき、中間コメント、意見書、補正書の文書もChatGPT連携により生成できるようになります<sup>[13]</sup>。

## 評判

appia-engineは比較的新しいサービスであるため、広範な評判情報は限られていますが、ユーザー会での評価では「発展途上であり、今後の機能拡充が期待される」との意見があります<sup>[12]</sup>。また、項目ごとにプロンプトがチューニングされているため、そのままChatGPTに入れる場合に比べてレベルがアップしているとの評価もあります<sup>[12]</sup>。

## 将来予測

appia-engineは今後、UIデザインのアップデートが予定されており<sup>[13]</sup>、よりユーザーフレンドリーなインターフェースへと進化すると予測されます。また、特許審査プロセスにおいてもAIの活用が進むことが予想され、特許庁のデータベースとリアルタイムで連携し、類似特許の検索や特許性の事前評価を行う機能の追加が期待されます<sup>[13]</sup>。

さらに、多言語対応や図面作成支援など、特許出願プロセス全体をカバーする総合的なAIアシスタントへと進化することで、知的財産戦略の立案から権利化まで、より広範囲な支援が可能になると予測されます<sup>[13]</sup>。

## ユアサポAI

### 技術的特徴

株式会社ユアサポが提供する「ユアサポAI」は、特許出願書類の作成を生成AIで効率化するWordアドインです<sup>[14]</sup>。最も特徴的な技術として、「まるで自分が書いたような」文章を生成する能力が挙げられます<sup>[14]</sup>。

これを実現するために、ユアサポAIは事務所や企業が過去に作成した請求項や明細書などの出願書類データを活用し、文体・用語をあらかじめAIに学習させるという独自技術（特許申請済）を採用しています<sup>[14]</sup>。この技術により、汎用的なAIツールでは難しかった特許出願書類のような専門性の高い文章においても、修正作業を最小限に抑えた効率的な文書作成が可能となっています<sup>[14]</sup>。

### 企業導入事例

「ユアサポAI」は2025年4月10日に正式リリースされたばかりですが、すでに国内複数の特許事務所で先行導入されています<sup>[14]</sup>。具体的な企業名や導入効果についての詳細は公開されていませんが、今後全国の事業者への本格展開を目指しているとのこと<sup>[14]</sup>。

### サービスの狙いと現状

ユアサポAIの主な狙いは、特許/弁理士事務所および企業知財部における特許出願書類作成の効率化です<sup>[14]</sup>。多くの汎用的なAIツールは「無難な文章」を生成することが中心で、特許出願書類のような専門性の高い文章では大幅な修正が生じがちという課題に対し、ユーザー固有の文体・用語をAIに学習させるアプローチで解決を図っています<sup>[14]</sup>。

現状では、2025年4月10日に正式リリースされたばかりであり<sup>[14]</sup>、先着10社（特許/弁理士事務所または企業知財部限定）を対象に2週間の無料トライアルを実施している段階です<sup>[14]</sup>。

### 評判

正式リリースされたばかりのサービスであるため、広範な評判情報は現時点では限られています。しかし、すでに国内複数の特許事務所で先行導入されていることから<sup>[14]</sup>、実務での有用性が一定程度認められているものと推察されます。

### 将来予測

ユアサポAIは、単なる文書作成ソフトの枠を超えた「プラットフォーム」へと発展させる構想を持っています<sup>[14]</sup>。運用を継続するほど精度が高まり、弁理士や知財担当者の実務負担を劇的に削減するだけでなく、より高度な知財戦略の実行を可能にする次世代の特許出願書類作成・管理ソリューションの提供を目指しています<sup>[14]</sup>。

今後は、AIによる学習データの蓄積により、各ユーザー固有の文体・表現をより精緻に再現できるようになり、特許実務におけるAI活用の先進的な事例として成長していく可能性があります。

## 総合比較分析

### 技術的アプローチの違い

4つのサービスは、それぞれ異なる技術的アプローチで特許文書作成支援を実現しています。TOKKYO.AIは広範な特許情報へのアクセスと検索に強みを持ち<sup>[1][4]</sup>、AI Samuraiは特許の評価・シミュレーションに独自の強みを持っています<sup>[7][6]</sup>。一方、アップピアエンジンはAzure OpenAI Serviceを活用した高セキュリティな環境での文書生成<sup>[11]</sup>、ユアサポAIはユーザー固有の文体・用語の学習による個性的な文書生成<sup>[14]</sup>にそれぞれ特化しています。

### 市場ポジショニング

TOKKYO.AIとAI Samuraiは比較的早くから市場に参入し、多くの導入実績を持っています<sup>[2][7]</sup>。特にAI Samuraiは100社以上への導入実績があり<sup>[7]</sup>、市場でのプレゼンスが高いと言えます。一方、アップピアエンジンとユアサポAIは比較的新しいサービスであり<sup>[11][14]</sup>、今後の市場開拓フェーズにあると考えられます。

### 今後の展望

全てのサービスに共通する傾向として、生成AIの活用による特許文書作成の自動化と効率化が進んでいます。特に、ChatGPTなどの大規模言語モデルとの連携強化が顕著です<sup>[7][11][14]</sup>。今後は、AIによる特許分析の精度向上に加え、企業の知財戦略全体をサポートする統合プラットフォームへの発展が予想されます。

また、特許情報のセキュリティに対する意識も高まっており、TOKKYO.AIのプライベート特許検索<sup>[1]</sup>やアップピアエンジンのAzure OpenAI Service活用<sup>[11]</sup>など、機密情報保護の取り組みも重要な差別化要因となっています。

## 結論

AI特許文書作成支援サービスは、特許実務の効率化と知財戦略の高度化に大きく貢献する可能性を秘めています。各サービスはそれぞれ独自の強みを持ち、ユーザーのニーズに応じた選択肢を提供しています。特に日本の特許出願数減少という課題に対し、AI Samuraiのように特許出願数増加への貢献を明確に掲げるサービス<sup>4</sup>は、日本の知財戦略の強化に寄与する可能性があります。

今後は、AIの更なる進化とともに、特許文書作成にとどまらず、発明創出から権利化、活用までの知財ライフサイクル全体をカバーする総合的なAIプラットフォームへと発展していくことが期待されます。企業や特許実務者は、自社の知財戦略やニーズに合わせて最適なサービスを選択し、効果的に活用していくことが重要となるでしょう。

\*\*

1. <https://www.tokkyo.ai/pvt/>
2. <https://www.tokkyo.ai/news/patent-news/patent-reading-support-system/>
3. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000505.000040956.html>
4. [https://aismiley.co.jp/ai\\_news/legaltech-patent-survey-ai-search-support/](https://aismiley.co.jp/ai_news/legaltech-patent-survey-ai-search-support/)
5. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/cf022cc58fb798017a56.pdf>
6. <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/tyousakai/kousou/2025/dai3/siryou5.pdf>
7. <https://aisamurai.co.jp/2023/08/23/aisamuraione-info/>
8. <https://aisamurai.co.jp/landingpage/>
9. <https://aisamurai.co.jp/2020/01/15/特許審査シミュレーションシステム『ai-samurai』は産/>
10. <https://aisamurai.co.jp>
11. <https://vision00.jp/topic/9433/>
12. <https://yorozuipsc.com/blog/chatgptappia-engine>
13. <https://xexeq.jp/blogs/media/topics6812>
14. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000049990.html>